

1 - 7 いわき地域

主要な施策のフォローアップ

大分類	中分類	その主な取組状況、今後の予定等
人	学校教育	<p>いわき光洋高校は、全日制課程の校舎の新築工事が完了し、平成16年4月に新校舎へ移転しました。定時制課程については、現校舎を利用して、平成16年4月に新しいタイプの定時制単位制高校である「いわき翠の杜高校」として開校しました。</p> <p>人文・国際、自然科学、生活福祉、スポーツ健康、芸術・表現、情報の6系列からなる総合学科を持つ内郷高校は、平成16年4月に校名変更を行い、「いわき総合高等学校」としました。</p> <p>平養護学校については、校舎等建築（第1期）及び旧校舎の解体を行いました。今後は、校舎等建築を継続するとともに、聾学校平分校については、校舎改築の基本計画を策定します。</p>
	社会教育	<p>各高等教育機関が実施する「いわき明星大学公開講座」、「東日本国際大学・いわき短期大学ふれあい出前講座」、「福島大学サテライト教室」、市が県民カレッジ整備事業の一環として各高等教育機関と連携して実施する「いわきヒューマンカレッジ」等により、生涯学習機会を拡充するとともに、施設の地域開放を進めました。</p> <p>ふくしま海洋科学館（アクアマリンふくしま）において、施設内案内・展示説明等にボランティアの協力を得るとともに、施設内外を活用した体験学習を実施しました。また、いわき海浜自然の家において、IT講習会、ふれあいキャンプなどの体験型事業を実施するとともに、自然の家の主催事業において、ボランティアの協力を得ました。</p>
	高等教育	<p>平成16年に独立行政法人国立高等専門学校機構福島工業高等専門学校に移行し、機械・電気システム工学専攻、物質・環境システム工学専攻、ビジネスコミュニケーション学専攻の3専攻科が設置されました。ビジネスコミュニケーション学専攻は、ビジネス系としては全国初の専攻科です。</p>
くらし	生活交通	<p>県道小野富岡線の道路改築など、川前地区、田人地区等の中山間地域における生活道路等の整備を進めました。</p> <p>常磐線、磐越東線のダイヤ改正、線形改良及び軌道強化による列車の増発やスピードアップなど、利用者の利便性向上に向けた要望活動を実施しました。</p>

大分類	中分類	その主な取組状況、今後の予定等
くらし	アメニティ	<p>広域交流の拠点となる小名浜港1、2号ふ頭再開発地区については、特に小名浜港倉庫地区の利活用に係る連絡調整会議を実施し、倉庫群の利活用に関する基本方針が合意形成されました。今後は引き続き利活用計画の策定をすすめるとともに、港湾環境整備事業により緑地の整備、倉庫群の利活用を推進します。</p> <p>漁港の親水機能向上のため、四倉漁港において連絡橋・進入路等を整備しました。今後は、環境施設利用者の憩いの場として多目的広場及び駐車場を整備します。</p> <p>いわきニュータウンにおける快適性の高い居住環境を創出するため、山口公園の整備を進めました。</p> <p>良好な住宅及び宅地の供給を図るため、常磐関船土地区画整理事業区域に接続する、都市計画道路関船鹿島線の整備を進めました。</p>
	文化・スポーツ・レクリエーション	<p>地域に伝わる歴史・文化遺産等を生かした地域づくりを、「地域づくりサポート事業」等を活用し支援しました。また、「福島県民の日」記念事業において、公共施設の開放を実施しました。今後も啓発活動や情報の提供などを通じて県民と一体となった活動を支援します。</p> <p>平成16年度をもって、いわき公園の整備が完了したことから、今後は、県民が快適・安全に利用できる広域公園として充実した維持管理に努めます。</p>
	防災	<p>治水機能の向上を図るため、夏井川、藤原川等において河道掘削等の工事を実施するとともに、湯本川床上浸水対策特別緊急事業においては、調節池の整備に着手しました。また、土砂災害を未然に防止するためのハザードマップ作成調査、土石流危険渓流における砂防事業や地すべり・急傾斜危険箇所の対策事業等を実施しました。</p> <p>台風等による高潮・高波から背後地の人命・財産を守るため、関田海岸、豊間漁港等において、海岸環境に配慮しながら人工リーフの海岸保全施設の整備を実施しました。</p> <p>小名浜港において、5・6号ふ頭地区の耐震強化岸壁を整備し、供用を開始するとともに、みなと大橋の耐震化工事に着手しました。</p> <p>石油コンビナートの防災対策のための実践的技術の向上と、防災体制の確立を図るため、県等の防災関係機関と特定事業所が一体となった防災訓練を定期的実施します。</p>
産業	農林水産業	<p>農用地の利用集積や作業受託を促進し、担い手の規模拡大、経営安定化を図りました。また、持続性の高い農業経営の確立と売れる米づくりを目指して、水稻直播栽培や環境にやさしい米づくりの取り組みを推進しました。</p>

大分類	中分類	その主な取組状況、今後の予定等
産 業	農林水産業	<p>サイインゲンの安定生産技術の現地指導会の開催やキクの芽なし品種導入の促進、アスパラガスの新規作付けを実施しました。また、中山間地域における省力化栽培や高品質鉢物による複合経営の確立に向けた支援を実施しました。</p> <p>「いわきの郷土食をつくる会」をいわき市の各地域で実施しました。また、三和地区においては、健康野菜生産協議会健康野菜生産部が結成され定期的な技術向上に向けた講習会を実施し、18名がエコファーマーに認定されるなど消費者との交流機会の拡大を図りました。</p> <p>さらに、直売所設置推進策として、いわき市農産物直売所連絡協議会が設立されました。</p> <p>高速交通網を活用した円滑な農産物集出荷などにより農業の高生産性を実現するとともに農村環境の改善を図るため、広域営農団地農道（いわき地区）の整備を進めました。</p> <p>森林ボランティアの登録誘導や情報提供等を実施し、森林とふれあう機会の拡大を図るとともに、住民や森林ボランティア等による森林づくりを促進しました。今後も引き続き、「いわきの森に親しむ会」を中心とした森林ボランティア団体の活動を支援します。</p> <p>林業・林産業構造改革事業により県産木材の安定供給体制を整備するとともに、ふくしま県産木材利用推進いわき地方連絡会議、いわき木質バイオマスエネルギー研究会の開催や、いわきの木で家をつくる勉強会の開催支援などにより、木材の需要拡大と利用推進を図りながら、再生産可能な資源である木材の循環利用体制の確立に努めました。</p> <p>沿岸域における水産資源の持続的利用を図るため、資源管理型漁業や、アワビ、ウニ、ヒラメ、サケなどの種苗の放流による「つくり育てる漁業」の推進等を実施しました。今後も資源管理型漁業を推進するため、協議会等を実施します。</p> <p>漁業経営の安定を図るため、ホッキガイなどの直売・宅配等による高付加価値化を推進するとともに、漁業協同組合の合併を目指し、事業統合等の協議・検討を実施しました。</p> <p>漁業後継者に対する支援や女性・高齢者の就労機会の拡大のため、漁協青壮年部と婦人部の活動を支援する水産業改良普及事業や、漁業後継者グループへの支援等を実施しました。</p> <p>水産物の加工と消費の振興を図るため、久之浜港魚まつり等において鮮魚販売等の衛生指導を実施したほか、地域の自慢料理を題材にした浜料理発表会の開催等により、県産水産物への理解の促進と消費の拡大を図りました。</p>

大分類	中分類	その主な取組状況、今後の予定等
産 業	農林水産業	<p>海の森づくり推進事業として、藻場を再生し、浅海域の生産力、水質機能回復に努めました。今後は、水産物流通拠点の整備にも努めます。</p>
	商工業	<p>バイオマス利用による地域循環システム研究を実施するとともに、いわき市においては、いわき地域産学官連携協議会を通じて産学官の連携の強化を図りました。今後も産学官連携による共同研究等を促進し、地域企業の技術開発力の強化を支援します。</p> <p>ハイテクプラザいわき技術支援センターの施設設備の開放や依頼試験の実施、研究開発テーマの企業への技術移転、研究成果普及講習会の開催等により、民間企業による付加価値の高いものづくりを支援しました。</p> <p>小名浜港の外国貿易コンテナ定期航路の拡大を図るため、船社及び荷主企業を訪問するとともに、福島県小名浜港利用促進協議会が実施するセミナー、荷主企業懇談会を支援するなど、積極的なポートセールスを展開しました。また、小名浜港港湾経営懇談会の開催や、くん蒸上屋の整備、藤原 CFS（コンテナステーション）の利用促進を図るなど、更に使いやすい港づくりに努めます。</p> <p>いわき四倉中核工業団地の整備を進めるとともに、企業誘致促進協議会による企業誘致戦略検討の研究会を開催するなど企業誘致促進に努めました。今後は、平成18年4月の団地分譲に向けて広報活動、企業訪問等を積極的に実施していきます。</p> <p>磐城工業用水道第1期改築事業計画に基づき、老朽施設の改築を進め、工業用水の安定供給に努めました。今後は、磐城工業用水道第2期改築事業を実施し、配水管の整備と耐震化を図っていきます。</p>
	観光・リゾート・交流型産業	<p>広域観光ルートの整備や多彩な観光資源のネットワーク化による滞在型観光の振興を図るため、みんなで探そう！浜通り観光再発見プロジェクトを立ち上げ、浜通り観光パンフレット「探検！うつくしま浜街道」を作成しました。今後は、平成17年度に実施される「浜通り方部観光キャンペーン」において、首都圏等に向け、いわきをPRし誘客を図ります。</p> <p>水産試験場における参観デーの実施や見学者の受入れ、ふくしま海洋科学館（アクアマリンふくしま）による館内スクールの開催、地域づくり団体へのサポート事業での支援等により、海や漁業等に関する理解を促進しました。</p> <p>三和町永井地区におけるそばオーナー制度の実施や、大野地区での観光いちご園の開設などにより、観光と連携した農林水産業の振興を支援しました。</p>

大分類	中分類	その主な取組状況、今後の予定等
環 境	生活環境	<p>いわき地域公害防止計画（平成15年度計画終了）に基づき、都市河川水質汚濁対策、交通公害対策を実施してきましたが、当該計画を平成20年まで継続する計画を策定しました。</p>
	自然環境	<p>自然環境を保護するため、福島県自然保護指導員が県立自然公園や自然環境保全地域を巡回することにより、利用者へのゴミの持ち帰り指導や自然環境の状況把握等を行いました。また、絶滅危惧類（県レッドリスト）の渡り鳥コアジサシの県内唯一の営巣地を保護するため、県立自然公園条例に基づき、平成16年度から営巣期間の5月から8月までの間、夏井川河口地域の一部を立入規制区域に指定しました。</p> <p>地方特定河川環境等整備事業による鮫川、夏井川の多自然型川づくり工事を実施するなど、周辺の自然環境との調和に配慮した多自然型川づくりを進めました。</p> <p>県民、事業者及び行政の環境保全に対する主体的な取り組みと連携を推進するため、いわき地方環境パートナーシップ会議を実施しました。また、うつくしまエコリーダーへの認定のほか、地域づくりサポート事業の活用等により、「循環の理念」に基づく自然環境保全の取り組みを支援しました。</p> <p>ふくしま海洋科学館（アクアマリンふくしま）は、水生生物等の調査研究を行うとともに、飼育困難生物であるメヒカリの調査研究成果を報告するためメヒカリサミットを開催しました。今後も絶滅危惧種の調査実施、沿岸生物の調査研究を実施します。</p>
基 盤	広域交通	<p>磐越自動車道いわきJCT～郡山JCT間について、未整備区間の4車線化工事を実施しており、早期に4車線化が図られるよう整備促進を国等に要望しました。</p> <p>多核分散型都市構造の各拠点間の移動の定時性を確保するため、国道6号常磐バイパス南富岡地区4車線化供用等を開始しました。</p> <p>地域交通ネットワークの円滑化を図るため、国道289号荷路夫バイパス、主要地方道いわき石川線皿貝工区などの整備を進めました。</p> <p>小名浜港の国際港湾としての機能高度化を図るため、東港において護岸工事を進めたほか、5・6号ふ頭の全面供用を開始しました。今後も引き続き東港の整備を促進するとともに5・6号ふ頭野積場等の整備を進めます。</p>

大分類	中分類	その主な取組状況、今後の予定等
基盤	中山間地域対策	<p>グリーン・ツーリズムコーディネーターを育成するとともに、地域づくりサポート事業での支援を行いました。いわき市においても、グリーン&ブルー・ツーリズム推進事業の実施により交流の促進に努めました。また、市民総ぐるみによる観光受け入れ体制の強化を図る「もてなしの心」醸成事業を実施しました。今後は、過疎・中山間地域振興を目的としたプレイトーン事業を実施します。</p> <p>いわき市においては、産業交流拠点施設整備基本計画に基づく施設利用に関する調査・研究として、パイロットオフィス事業を行いました。今後はITサポート事業として、サポートセンターを開設し、地域住民の情報活用能力の向上を図ります。</p>
	中心市街地対策	<p>いわき駅前再開発事業については、平成16年5月に県都市計画審議会を経て事業が認可され、平成17年2月には、権利変換計画を認可しました。今後は、いわき駅前地区市街地再開発組合が主体となり、再開発事業を推進していきます。また、市街地再開発事業や街路の整備を促進するとともに、空き店舗対策事業の実施等により活力ある商店街の再生を推進します。</p> <p>泉地区、内郷地区の区画整理事業を推進するとともに、小名浜地区の市街地整備についての調査の支援を行いました。</p> <p>いわき市においては、中心市街地において質の高い文化・芸術を楽しめる拠点施設について、PFI方式に基づき、設計・建設を行うための業者選定を行い、12月に契約を締結しました。今後は、施設の設計・測量調査等を実施します。</p>
	広域連携	<p>阿武隈地域においては、国道289号荷路夫バイパスの整備を促進するなど道路網の整備や、永井地区で農業集落排水施設の供用を開始するなど生活基盤の整備を進めました。また、今後も引き続き、生活基盤の整備をすすめるとともにいわき市東京観光物産交流センター「いわき・ら・ら」や地域づくりサポート事業の活用などにより、地域資源を活用した都市住民との交流も支援します。</p> <p>磐越自動車道沿線都市交流会議において、交流スポーツ大会や観光物産展の実施、HPの更新等を行いました。</p>